
7人の忍者と姫

Babylon

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

7人の忍者と姫

【Nコード】

N8038S

【作者名】

B a b y l o n

【あらすじ】

江戸時代前期

14歳の姫に仕える7人の忍者達
7人の忍者と姫で繰り広げられる
禁断の恋物語

初作品です

ゝ禁断の恋物語ゝ

「涼丸……（泣）」

江戸時代前期

城の外では戦いの音が響いていた

「愛美さま……」

寝室に現れた一人の男の子

「涼丸……怖いのです……」

こういう事は戦いがあるたびに、姫、小高愛美は嘆く。

それも仕方がかない。愛美はまだ14歳。

「愛美さまっ」

「涼丸」

そしてまた2人の男の子

「龍介と圭太郎は戻らなくていいのか？」

涼丸が言う

「いやあ……もう勝ったよ？」

そういえば外が静まり返っている

「なんだ……お疲れ」

「こっちは死傷者0」

圭太郎が言う

「あっちは？」

涼丸が聞く

「おいおい！！愛美さまが寝てるんだから、部屋に戻るぞ」

涼丸は気付いた。

「寝てたんだ（＾＾；）」

忍者部屋

3人は愛美の所から帰ってきた

「……お疲れ」

裕郎が言った

「だいたい7対15なんてむちゃくちゃだったでしょ」
侑希が言った。

「まあ……結果オーライ！！勝ったんだから」

宏介が笑顔で言う。

「そうだなっ！！」

光が笑う。

涼丸は安心した。

宏介、光は20歳。

圭太郎と裕郎が17歳。

侑希と涼丸は16歳。

龍介のみ14歳。

涼丸は真ん中なのだ。

そして涼丸は皆には秘密の事がある。

く秘密く（前書き）

姫の事が気になっているのだ。
でも惚れない訳がない。

世紀の美少女と、後に言われるのだから。

「涼丸。。。」

「ん？」

龍介が言う

「飯……ハラ減った（^^;）」

「あ……そつか！！当番俺か」

涼丸はすっかり忘れていた。

夕飯は当番制。今夜は涼丸の番だった。

「大丈夫？手伝う？」

宏介が心配そうに言う。

宏介は最年長でリーダー的存在。とても優しく、運動神経も抜群。
料理の腕前も良い。

「あ、じゃあ葱を……」

10分後

「出来たよー！！」

涼丸の声で宏介、涼丸以外の5人の目が輝く。

今日は味噌汁、ご飯、おひたし、いつもこんな感じの「ご飯」。

「いただきますーすー！！」

「宏介の作るおひたし最高ー！！」

光が口におひたしを頬張っていた。

「ありがと。」

宏介が照れながら言った。

しばらくすると侑希、裕郎、圭太郎、涼丸、龍介は寢床につき、宏介、光は話していた。

「なあ」

光が宏介に問いかけた。

「あ？」

宏介は光の方を向く。

光の顔が固くなる。

「あの忍者が隣の村に現れたらしい。5人が死傷した。」

宏介は驚きを隠せない。

「まさか……雄火？」

光は下を向く。

「雄火は多分、こっちにやってくる。」

宏介は難しい顔をして

「対策を明日。練ろう。とりあえず今日は寝よ。」

光はうなずき2人も寢床についた。

く秘密く

「涼丸……（泣）」

江戸時代前期

城の外では戦いの音が響いていた

「愛美さま……」

寝室に現れた一人の男の子

「涼丸……怖いのです……」

こういう事は戦いがあるたびに、姫、小高愛美は嘆く。

それも仕方がない。愛美はまだ14歳。

「愛美さまっ」

「涼丸」

そしてまた2人の男の子

「龍介と圭太郎は戻らなくていいのか？」

涼丸が言う

「いやあ……もう勝ったよ？」

そういえば外が静まり返っている

「なんだ……お疲れ」

「こっちは死傷者0」

圭太郎が言う

「あっちは？」

涼丸が聞く

「おいおい！！愛美さまが寝てるんだから、部屋に戻るぞ」

涼丸は気付いた。

「寝てたんだ（＾＾；）」

忍者部屋

3人は愛美の所から帰ってきた

「……お疲れ」

裕郎が言った

「だいたい7対15なんてむちゃくちゃだったでしょ」
侑希が言った。

「まあ……結果オーライ！！勝ったんだから」

宏介が笑顔で言う。

「そうだなっ！！」

光が笑う。

涼丸は安心した。

宏介、光は20歳。

圭太郎と裕郎が17歳。

侑希と涼丸は16歳。

龍介のみ14歳。

涼丸は真ん中なのだ。

そして涼丸は皆には秘密の事がある。

く翌朝く（前書き）

「きゃあ~~~~~っ！！！！」

涼丸はこの声と共に目を覚ます。

隣にいたはずの宏介、光の味いなし。

「愛美さま。なんかあった？」

龍介と裕郎は目をこすりながら体を起こす。

侑希と圭太郎はもうすでに着替えていた。

姫の部屋

「うう~~~~」

愛美が叫んだ理由は、部屋に飛んできた虫。

愛美は動物が好きだが、虫だけは嫌いなのだ。
窓の外から宏介、光がやってくる。

「愛美さま。どうされましたか？」

宏介が聞く。

「宏介え~~~~！！！！（泣）」

宏介に抱きつく愛美。

「／／／／／」

光が理解した。

「虫~~~~~ですか？」

愛美がうなずく。

「……………」

部屋が静まり返る。

実は宏介も光も虫が嫌いなのだ。

「愛美さま！！」

そこに現れたのは虫が好きな裕郎。

「良いところに来た！！虫。とつて！！！！」

裕郎は指の向く方をみて目が輝く。かぶと虫だった。

「とって良いんですか!？」

「早くうゝ!!!!!」

愛美が言う。

涼丸は朝起きた時から違和感を感じていた。

今日は何かおかしい

そう思っていた。

どうやら涼丸だけでなく、他の6人も感じていたようだ。

～翌朝～

「涼丸……（泣）」

江戸時代前期

城の外では戦いの音が響いていた

「愛美さま……」

寝室に現れた一人の男の子

「涼丸……怖いのです……」

こういう事は戦いがあるたびに、姫、小高愛美は嘆く。
それも仕方がない。愛美はまだ14歳。

「愛美さまっ」

「涼丸」

そしてまた2人の男の子

「龍介と圭太郎は戻らなくていいのか？」

涼丸が言う

「いやあ……もう勝ったよ？」

そういえば外が静まり返っている

「なんだ……お疲れ」

「こっちは死傷者0」

圭太郎が言う

「あっちは？」

涼丸が聞く

「おいおい！！愛美さまが寝てるんだから、部屋に戻るぞ」

涼丸は気付いた。

「寝てたんだ（＾＾；）」

忍者部屋

3人は愛美の所から帰ってきた

「……お疲れ」

裕郎が言った

「だいたい7対15なんてむちゃくちゃだったでしょ」
侑希が言った。

「まあ……結果オーライ！！勝ったんだから」

宏介が笑顔で言う。

「そうだなっ！！」

光が笑う。

涼丸は安心した。

宏介、光は20歳。

圭太郎と裕郎が17歳。

侑希と涼丸は16歳。

龍介のみ14歳。

涼丸は真ん中なのだ。

そして涼丸は皆には秘密の事がある。

くシヨックく（前書き）

「よお……手紙」

忍者部屋の外から忍者が一人やってきた。

「大乃介？」

足輕配達兼忍者の大乃介だ。明るくてトラブルメーカーでポジティブな少年。

「なんかテンション低くない？」

大乃介は下をむいたままだ。

「顔上げるよ。」

宏介が無理やり上げた。そして驚いた。

なかなか泣かない大乃介が泣いているのだ。

一同は騒然。特に驚いたのは幼なじみの涼丸だった。

「手紙…見せて」

涼丸が手紙もらい、差出人を見てニコツとした。

「なんだ…勇太郎様じゃないか。」

勇太郎は愛美の兄なのだ。

”なにが泣けるんだろう？”

涼丸はすぐ思った。が、手紙を見て涼丸は崩れた。

「涼丸っ！！！」

大乃介は泣いたままだ。涼丸も泣いている。

他の忍者も手紙を見て仰天した。

「……………勇太郎様が……………亡くなった？」

光が消えそうな声で言った。

「これを……………愛美さまに伝えてほしい。」

大乃介は申し訳なさそうに言った。

「そんなの出来るかよっ！！！！！」

大声を張り上げたのは涼丸だった。実は涼丸の両親は殺されていたのだ。

「ごめん……ごめん……」

大乃介はずっと謝り続けた。

「じゃあ…俺行かなきゃ。」

大乃介は出て行こうとした。

「待って!!」

宏介が呼び止めた。

「これ、持ってけ。朝飯の残りだけど…」

宏介はおにぎりを渡した。

「気を付けて帰れよ(^^)」

「ありがとう」

大乃介は出ていった。

くシヨックく

「涼丸……（泣）」

江戸時代前期

城の外では戦いの音が響いていた

「愛美さま……」

寝室に現れた一人の男の子

「涼丸……怖いのです……」

こういう事は戦いがあるたびに、姫、小高愛美は嘆く。
それも仕方がかない。愛美はまだ14歳。

「愛美さまっ」

「涼丸」

そしてまた2人の男の子

「龍介と圭太郎は戻らなくていいのか？」

涼丸が言う

「いやあ……もう勝ったよ？」

そういえば外が静まり返っている

「なんだ……お疲れ」

「こっちは死傷者0」

圭太郎が言う

「あっちは？」

涼丸が聞く

「おいおい！！愛美さまが寝てるんだから、部屋に戻るぞ」

涼丸は気付いた。

「寝てたんだ（＾＾；）」

忍者部屋

3人は愛美の所から帰ってきた

「……お疲れ」

裕郎が言った

「だいたい7対15なんてむちゃくちゃだったでしょ」
侑希が言った。

「まあ……結果オーライ！！勝ったんだから」

宏介が笑顔で言う。

「そうだなっ！！」

光が笑う。

涼丸は安心した。

宏介、光は20歳。

圭太郎と裕郎が17歳。

侑希と涼丸は16歳。

龍介のみ14歳。

涼丸は真ん中なのだ。

そして涼丸は皆には秘密の事がある。

く話さなければ（前書き）

「……………」

一同は静まり返っていた。

外を吹く風音まで聞こえていた。

城下町は賑わい、小鳥は歌い、いつもと変わらぬ風景に、信じがたい真実。

これを愛美に伝えたら…

「どうしよう……………」

圭太郎はおどおど…………

「お兄さまが死んだなんて言えるかよ！……！」
涼丸は泣き崩れた。

「がらがら……………」

一同振り返った。

「……………！！愛美さま！！！」

宏介はもちろん。

驚きを隠せない。

く話さなければ

「涼丸……（泣）」

江戸時代前期

城の外では戦いの音が響いていた

「愛美さま……」

寝室に現れた一人の男の子

「涼丸……怖いのです……」

こういう事は戦いがあるたびに、姫、小高愛美は嘆く。
それも仕方がかない。愛美はまだ14歳。

「愛美さまっ」

「涼丸」

そしてまた2人の男の子

「龍介と圭太郎は戻らなくていいのか？」

涼丸が言う

「いやあ……もう勝ったよ？」

そういえば外が静まり返っている

「なんだ……お疲れ」

「こっちは死傷者0」

圭太郎が言う

「あっちは？」

涼丸が聞く

「おいおい！！愛美さまが寝てるんだから、部屋に戻るぞ」

涼丸は気付いた。

「寝てたんだ（＾＾；）」

忍者部屋

3人は愛美の所から帰ってきた

「……お疲れ」

裕郎が言った

「だいたい7対15なんてむちゃくちゃだったでしょ」
侑希が言った。

「まあ……結果オーライ！！勝ったんだから」

宏介が笑顔で言う。

「そうだなっ！！」

光が笑う。

涼丸は安心した。

宏介、光は20歳。

圭太郎と裕郎が17歳。

侑希と涼丸は16歳。

龍介のみ14歳。

涼丸は真ん中なのだ。

そして涼丸は皆には秘密の事がある。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8038s/>

7人の忍者と姫

2011年10月9日01時03分発行